

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年8月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200445
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホーム そら
所在地	鹿児島県薩摩川内市横馬場8番11号 (電話) 0996-22-6800
自己評価作成日	令和6年7月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する同法人の介護老人保健施設で、主治医による往診や、機能訓練士・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士からの定期的な助言を受けながら日々の健康管理に努め、利用者様が安心して、心地良く生活して頂けるように、常に考えながら支援を行っています。隣接事業所と連携を取りながら、緊急時の対応や災害時の訓練を合同で行う協力体制が整っています。介護度や年齢により、精神面や身体面は様々ですが、認知機能や身体機能の低下にならないように必要以上の介助をしないように努めています。リハビリを兼ねて、一緒に作る食レク、季節毎の行事、敷地内の散歩、施設内の飾りつけも季節がわかる物を一緒に作成、掲示し皆様に楽しみを持って頂けるように、日々取り組んでいます。利用者の重度化と高齢化が伴う中で、法人内チーム介護で、利用者一人一人の個性や生活環境に配慮した介護に取り組んでいる。職員が向上心を持って働ける職場を目指している。感染症の状況を確認しながらではあるが、車でのドライブに出けたり、面会時間も徐々に延びて家族との交流にも取り組んでいる。

- ・当事業所は、隣接する介護老人保健施設の種々の専門職の助言や協力を日常的に受けており、避難訓練も合同で実施するなど密接な協力体制を築いている。
- ・系列の協力医療機関による定期往診や24時間の医療協力体制、隣接施設看護師との連携により医療・健康面における支援が行われている。
- ・コロナ禍のため制限されていた家族の居室面会再開や外出の緩和などで家族との交流を支援し、事業所からも隔月に「そらだより」や写真を送付して関係が途切れないよう工夫している。
- ・管理者・職員は、利用者にできるところはしてもらって必要時に支援を行い、利用者の残存機能維持を図るケアに取り組んでいる。また、毎日ゆっくり話をする時間を設けて本人の思いを把握できるよう努めている。
- ・管理者は、職員の要望を受けて休憩時間確保のため業務改善に取り組んだり、個々の事情を考慮した勤務の配慮など、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員、出勤時に理念の読み上げを行っている。また理念カードを常に携帯しいつでも見返せることで、理念に沿った日々の支援につなげている。	理念を玄関やリビング等に掲示し、毎朝唱和し、ケアに取り組んでいる。年度末にケアの振り返りを行っている他、自己評価を全員で作成し業務全般の振り返りの機会としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入している。月2回、地域住民等が参加する認知症カフェが法人内で開催されており、ご家族と一緒に参加し体操やもの作り等を通して交流を行っている。	自治会に加入しているが、感染予防のため行事参加は控えている。法人の認知症カフェに利用者同伴の家族参加を働きかけたり、住民からの花苗の差入れや散歩時の保育園児と窓越し挨拶などで、交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や認知症カフェを通じて、認知症に対する理解や協力を得られるように情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、家族代表、消防署員、市の担当者、地域の代表が参加し、行事や研修、利用者様の近況などを報告している。また意見交換も活発に行われ出された意見はサービスの向上に活かす取り組みを行っている。	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、事業所のヒヤリハットを含めた状況報告と意見交換をコロナ状況を把握し対面で実施している。多彩な委員との意見交換は事業所の取り組みへの理解を得る機会でもあり、得られた地域情報や意見はサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や認知症カフェ等で、市の担当者と意見交換や事業所の実績を伝え情報共有を行っている。家族から相談や困難な事例は市役所に相談し、協力関係を築いている。	市の担当者とは、運営推進会議や認知症カフェ参加時の意見交換や必要時に出向いて相談等を行って連携を図っており、市主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設定し、身体拘束について3か月に1回そら会議で勉強会を行い、法人研修（e-ケアラボ）で学び禁止対象となる具体的な行為の正しい理解について全職員で共通認識を図っている。	指針を作成し、3ヶ月に1回、委員会と研修会を実施している。スピーチロックに気づいた時は管理者から注意を促すとともに、勉強会でも取り上げている。帰宅願望のある利用者のため玄関の施錠をする場合もあるが対応を検討予定であり、外に出たい利用者には職員と一緒に園庭の散歩等をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、法人研修（e-ケアラボ）や身体拘束委員会でも学ぶ機会を作り、職員間で意見を出し合うなどして虐待が見過ごされる事がないように注意し、防止に努めている。今年度より高齢者虐待については3か月1回そら会議の時に学習することになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度の研修会へ職員が参加し、他の職員へ伝達し全職員が理解出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時や介護保険改正、加算算定時に事前に管理者・介護支援専門員により説明を行っている。退去を含めた施設での対応可能な範囲についても説明を行っている。利用者様の家族からの不安や質問は随時対応し、理解、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設の玄関の意見箱の設置や2か月に1回発行するそらだよりに要望やご意見がありましたら連絡下さいと表記し、運営推進会議に家族が参加し、その際意見を聞きサービス改善に努めている。電話や面会時にお話を伺い要望を取り入れるようにしている。	日常会話の中から利用者の要望を聞き、園庭の散歩やおやつ作りに取り入れる等の対応をしている。家族には電話や面会時に要望を聞き、その都度対応しており、3月から居室面会を再開している。外出・外泊については個別に判断することで理解を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者、代表者が出席する経営会議、管理者、職員が出席する施設の会議を毎月実施し、職員提案や検討が行える体制を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務は、原則担当制としている。業務量が偏らないように分担し配慮している。研修や資格取得の支援、資格手当も整備されておりやりがいに繋がっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ研修として、ネットを活用した施設研修、個人研修を毎月行っている。 行政や、グループホーム協議会、認知症関連の研修会への参加の機会を設け職員のケアの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設や在宅介護支援事業所との連携、グループホーム協会加入による交流や勉強会の参加を通じて学び合い、質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の情報を事前に職員全員が把握・理解し、入居後は新しい環境に不安を持たれていると思うので積極的に関わりを持ちたり他の入居者様との仲を取りもつように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期利用者における家族からの情報の重要性、必要性を全職員が理解しており、入居後も本人やご家族の不安な事や要望など積極的に相談に応じている。また本人とご家族との関係が良好に保てるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は、初期相談は法人の支援相談員が窓口として一本化しているが、入居の可否に関わらず、相談等、問題解決の支援を行っており、その時必要と判断したサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のADLに応じて毎月お菓子作りを行い、出来る所を手伝って頂いたり、季節毎の飾りなどの作成を職員も参加し、一緒に楽しい時間を共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のキーパンソンを中心にして生活状況を面会時やケアプランの説明時、広報誌などでお伝えしている。体調不良時には常に連絡するなどとして交流している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は本人の居室で直接対面できるなどし、外出についても制限を緩和している。病院受診についても家族との関係継続に努めている。友人、知人との関係についても電話や手紙の取り次ぎ、窓越しの面会など状況に合わせて対応する。	家族との居室面会や受診・外出での交流を支援し、事業所から「そらだより」や写真を2ヶ月に1回送付して近況報告を行ない、関係が途切れないようにしている。職員とドライブで自宅付近に立ち寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握して利用者同士が交流しやすいように配置し、良好な関係作りができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても生活する上での注意点など情報提供を行い、いつでも家族から相談があれば対応し、本人、家族のフォローを行えるよう関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向は日常生活の関わりの中から言葉・表情・行動・仕草から把握して朝夕の申し送りカンファレンスなどから情報を共有して検討を行い統一したケアを実践している。	利用者とゆっくり話せるよう、お茶の時間に30分程度、利用者が思い等を話しやすいように職員のほうから声かけしている。法人内施設からの入所者が多く、職員からの情報も参考に思いを推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、ご家族や知人やケアマネジャーから情報を収集して把握に努め、本人からの聞き取りを声掛けで引き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の一人ひとりに担当者がいて現状の把握に努め日々の変化に対応して個人録、申し送り、業務日誌、ケアカンファレンスで活用して共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族や担当職員、介護支援専門員や医師、歯科衛生士、作業療法士の意見や助言を得て、本人や家族の日々の関わりを通してそれぞれの思いをよりよい生活の為に課題とケアのあり方を反映させている。	本人や家族の希望を聞いたり、担当者会議を家族やケアマネジャー・職員で実施している。その他、職員や法人の専門職員等の意見も入れて介護計画を作成している。モニタリングは毎月ケアカンファレンスで検討し3ヶ月に1回とりまとめ、3ヶ月毎及び状況変化時に計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の記録や所定の記録用紙を活用している。本人の言葉やエピソード、変更点、注意点など申し送りに記入し、全職員で情報共有して介護計画書の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種の専門性を活用し、マンパワーを生かして専門職からのアドバイスや他事業所間との交流でケアの多様性に役立っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用して行きたい場所ややりたい事の把握をして、個別に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医や専門医の選定にあたっては、家族と検討し、その時の状況に合わせて、協力医療機関の協力も頂きつつ行っている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認している。系列の協力医療機関と月1回の往診及び、緊急時を含めた24時間の医療協力体制を築いており、歯科の往診も2週間毎にある。他科受診は家族対応を基本としている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しており主治医が2週間に1回往診され適切なアドバイスがあり利用者の状態変化を見過ごす事がないように努めています。希望時家族も立ち合いが出来るようにしている。夜間、緊急時は併設施設の看護師が対応する体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と電話等で情報の提供、収集を行っている。退院後生活の不安がなくなるよう法人の専門職と連携し体制作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に対し入居時より当事業所に対応可能な事、出来ない事を説明している。早い段階から個別に入居継続可否の判断は主治医や協力医療機関の医師にお願いしている。	契約時に重度化等の場合の対応について説明し、同意書をもっている。入居後に必要に応じて特別養護老人ホームの説明をしている。重度化の場合、主治医から家族に病状を説明し、家族の意向に沿って事業所としてできる支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や緊急時の対処法について勉強会を開催している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の併設施設と共同で避難誘導、火災、災害訓練、夜間呼び出し訓練を行っている。BPC作成しスタッフ間で確認している。災害に備えて飲料水分、食料を備蓄している。（消費期限の確認も行う）	法人内施設合同の火災避難訓練を年2回昼夜想定で実施し、年1回消防署の立ち合いを受けている。水害の自主訓練を年1回昼想定で実施している。地域との協力体制は築いているが、コロナの感染予防のため声かけを控えている。事業継続計画（BCP）を策定しており、非常用の備蓄は、3日分の水・食料・カセットコンロを事業所で、その他は法人で確保している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人として個人情報の保護、尊厳保持に努めている。日常の介助に関して人格や誇りを肯定する会話を心がけている。関わり方に問題のある時は会議で話し合い見直しを行っている。	法人内研修を受講し、個々に応じた言葉での対応に努めている。排泄に関する情報交換や朝夕の申し送りは、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努め、羞恥心にも配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の情報（生活歴や趣味）を踏まえた会話をきっかけにして、本人の思いや希望を言葉や表情から推測して働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちによりそい、活動に参加する。居室で休む等、本人のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容、スキンケア等時間を設けたり好みの服が選べるように収納を工夫して支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の準備等は感染症対策の為、現在は職員が行っている。月1回の調理行事は感染対策上一部制限を設けているが、成形や下ごしらえ等参加して頂き、作った物を食べる楽しみを味わうことができている。	主食以外は外部の配食サービスを利用しており、盛り付けは職員が行っている。コロナ等の感染予防のため制限はあるが、毎月1回のおやつ作りや梅干しづくりを利用者と一緒に行ない、自分で作って食べる楽しみを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人の管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士等の助言をもらい、一人一人の適切な量、形態で提供している。食事、水分量は表に記入チェックし、量の確保に向けて嗜好品等を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が口腔ケアされた後に職員がチェックし磨き残しがないようにしている。又定期的に歯科衛生士による口腔チェックを行い必要時は歯科治療につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	高齢により生理的に失敗される方が多い為、尿取りパットを活用しつつ定期的に声掛けしてトイレに誘導している。排泄チェックを活用することで個々のパターンやタイミングを知る事が出来ている。便槽内での排泄もみられパットの使用量の減少にもつながっている。	排泄チェック表で把握した個々の排泄パターンに応じ定期的に声かけして、日中はトイレでの排泄を支援している。定期的な声かけにより尿取りパットの使用量減少につながっている。夜間のみ、ポータブルトイレの使用やパット交換を行う利用者もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を常に確認している。便秘予防として、水分補給や運動を実施している。薬の副作用や慢性的な便秘の方には医療と連携し緩下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者様のお一人お一人のその日の体調に応じて援助を行っている。拒否があった際は時間を空けて再度声を掛けたり、日を改める等対応を行っている。安心して入浴でき気持ちよくなったと思って頂けるよう支援している。	週2回午前中に入浴を支援しており、浴槽とシャワー浴利用が半々であり、体調等で清拭も行っている。入浴剤の使用やゆず湯で入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。嫌がる場合は、声かけを工夫したり日を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して過ごして頂けるよう睡眠の妨げ防止に見守り助機器等を利用しながら、排泄の支援方法、時間、回数等を利用者毎に変更したり、必要に応じて午睡をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に必ず効能や副作用を確認している。体調に変化が見られた際は速やかに主治医に報告し、対応出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人、得意な事、以前やっていた作業、趣味等を把握し、日々取り組んで頂けるよう支援している。散歩、外気浴等、季節を感じて頂けるような支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	車で少し距離のある所までドライブへ行く事が出来た。（車内からの見物であったが）また、敷地内へ散歩やウッドデッキへ少し外気浴をする等、気分転換を行った。今後は家族の協力を得ながら、ご本人の希望に沿った外出が出来るよう支援して行く	天候の良い日は、ウッドデッキでの外気浴や園庭の散歩をしている。年間計画を作成し、春・秋のドライブを法人の協力で実施している。家族と受診等で外出する利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事前に本人、家族と話し合っ て決めている。必要な物を購入する際は家族に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	通話の希望があった際は、自由に使い話をして頂いている。年賀状、手紙等をご家族へ出している。お届け物があった際は電話をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、洗面台には季節の花、植物を飾ったり、利用者様が制作した毎月の作品を飾る等している。温度、湿度の管理は利用者様に確認してから調整を行っている。	リビングは空気清浄機やエアコン・遮光カーテンで適度な室内環境に調節し、窓を開けて換気も十分行っている。利用者が季節の作品が飾られた室内のソファ等でくつろげるよう、車いすの動線を確保し安全に配慮したテーブル配置がされている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本や新聞を読まれたり、テレビを観て過ごして頂いている。他の利用者様との会話を楽しまれたり好きな所でゆっくり過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、なじみの生活用品などの持ち込みをお願いしている。居室内にはご家族の写真や送られてきたカード等を自由に飾って頂き、落ちつける工夫をしている。また、テレビの持ち込みをされる方もおりお好きな番組を自由に見る事ができている。	居室にはベッドや収納ケース・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。本人は使い慣れた毛布等の寝具や必要に応じてテレビ・衣装ケースを持ち込んだり、写真を飾って安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩や歩行器、車椅子等の使用に関係なく快適に過ごせるように手すり、スロープ等を設置している。ウッドデッキへ出る際も段差なく室外へ出られる工夫をしている。また、トイレや洗面所、浴室など一目でわかりやすいように掲示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない